

特集

心と文化をひもひもとく

—文化心理学のこれまでとこれから

私たちは、自分の心が文化によって形づくられていることを、ふだんあまり意識していません。考え方も感じ方も、「自分らしさ」さえも、生まれつき備わったもの、あるいは自分だけで作りあげたものだと思いがちです。

けれども私たちの心は、生まれ落ちた文化環境の影響を強く受けています。

1991年、文化心理学者であるヘーゼル・マーカスと北山忍が、「文化と自己」についての論文を発表し、私たちの心が文化と深く関わりながら形づくられるものであることを示しました。文化は「自己」についての認識の枠組みに働きかけ、その「自己観」の違いが、ものの見方や感じ方、そして動機づけにまで及ぶことを明らかにしたのです。

本特集では、1991年を契機に発展してきた文化心理学の歩みと現在地をたどり、これからの挑戦についても展望します。

心と文化の切っても切れない関係をひもとけば、私たちの心が「世界中どこでも同じ」というわけではないことに気づきます。そうした気づきは、私たちの心の捉え方を大きく変えてくれるはずです。（橋本博文）